

4
分
3
3
秒

私
は

【甲】「……何だ、これは」

【乙】「新作の原稿です。ようやく、形になりました」

【甲】「……お前、馬鹿にしてるのか？　こんなのをうちの出版社から出せつてのか？　長年お前を担当してきた俺だが……これは、怒る以外にないぞ？」

【乙】「冗談を。漱石、カフカ、シモンズ、ユング、ゲーテに江國に星新一……。それまで秀でた作品を世に生み出した文豪には悪いですが、これを上回る作品などこの世にはありません。これは人類の歴史に名を刻む、前人未到の最高芸術品なのです！」

【甲】「何を大仰な……。最初と最後以外、何も書いていないじゃないか」

【乙】「当然です。何も書いていませんから」

【甲】「……はあ？」

【乙】「貴方には見えませんか？　この、空白の中に浮かぶ名作が！！」

【甲】「俺には何も見えん」

【乙】「想像して下さい！　ここに浮かぶ数々のドラマ……愛憎……そして、カタルシス……！！」

私
は